

科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）

科目名：被服学（2021）

2021年度「被服学」授業評価・授業研究報告

家政教育・眞鍋 郁代

1. 授業の基本情報・概要

本授業は学校教育教員養成課程中等教育コース家政教育専攻における専門科目であり、家庭科免許取得のための必修科目の一つとなっている。この授業を履修した理由について、今年度の受講学生にたずねてみると、最も多かった理由は「(二種を含む)免許取得のため」との回答であった。

本年度の受講学生は、1回生8名、2回生5名、3回生1名、4回生1名の合計15名であり、内訳の詳細は小学校サブコース1回生4名、2回生5名、3回生1名、4回生1名、中等教育家政教育専攻3名、国語教育専攻1名となっている。

衣服の素材ならびにその管理に関する基礎的な知識を習得し、理解を深めることと、被服製作に必要な初歩的スキルを習得することが、この授業の概要であり、ここで得た知識を自身の快適な衣生活のために生かすことを目標としている。講義形式の授業で衣服材料の成り立ちや性能、原理などについて発問形式を取り入れてまず気づきの場面を入れ、配布資料などを読んで確かめ、図や写真、実物観察などによってわかるように工夫し、さらに簡易なモノづくり等によって考え・応用できるように組み立てている。

<授業スケジュール>

1. 基礎縫い(手縫い)実習(1)布の取り扱い、用具の使用法
2. 基礎縫い(手縫い)実習(2)手縫い方法
3. 糸の構造(1)撚り方向と種類、糸の太さの単位
4. 糸の構造(2)糸の重さ・長さ計測による糸の太さ算出
5. 織物の構造 織り物の種類、性質、観察
6. 編物の構造
7. 天然繊維の性質(1)植物繊維
8. 天然繊維の性質(2)動物繊維
9. 化学繊維の性質(1)再生繊維と半合成繊維
10. 化学繊維の性質(2)合成繊維
11. 洗たくに関する学習(1)衣服につく汚れの

特徴、性質

12. 洗たくに関する学習(2)界面活性剤、補助剤の性質
13. 和服に関する学習
14. ミシンを使った製作実習(1)ミシンの使用方法
15. ミシンを使った製作実習(2)小物の製作
16. 試験・まとめ

2. 授業評価・授業研究の内容

調査項目を以下に述べる。またそれぞれの質問項目における回答人数も()内に併記した。回答を得た授業アンケートは受講学生15名分である。

A あなた自身についてお聞きします。

- (1) この授業にどのくらい出席しましたか。
①全部(11名) ②1,2回欠席(2名)
③3,4回欠席(2名) ④5回以上欠席(0名)
- (2) この授業に関して授業時間外の学習時間は1回の授業ごとにどれくらいしましたか。
①2時間以上(1名) ②1~2時間(2名)
③30分~1時間(9名) ④30分未満(3名)
- (3) 授業に対して意欲的に取り組みましたか。
①十分に取組んだ(1名) ②かなり取組んだ(5名) ③普通(9名)
- (4) この授業を履修した理由
①授業名で(3名) ③シラバスの内容(4名)
④時間割の都合(4名) ⑤その他〔自由記述〕
「希望する免許の取得に必要だったから。」(2名)
「必修教科だから」(2名)

B 授業についてお聞きします。

- (1) 先生の話方(言葉・声の調子など)は適切でしたか。
①そう思う(6名) ②どちらかといえばそう思う(5名) ③どちらともいえない(3名)
④あまりそう思わない(1名)
- (2) 板書やパワーポイントの字や図の表現は適切でしたか。
①そう思う(6名) ②どちらかといえばそう思う(6名) ③どちらともいえない(2名)
④あまりそう思わない(1名)
- (3) 先生は学生が質問や意見を述べられるよ

うに配慮しましたか。

- ① そう思う (5名) ② どちらかといえばそう思う (10名) ③ どちらともいえない (0名)
- (4) 配布資料、教科書などの教材は適切でしたか。
① そう思う (9名) ② どちらかといえばそう思う (5名) ③ どちらともいえない (1名)
- (5) 授業の内容は興味関心が持てるものでしたか。
① そう思う (10名) ② どちらかといえばそう思う (4名) ③ どちらともいえない (1名)
- (6) 授業の内容は理解できるものでしたか。
① そう思う (9名) ② どちらかといえばそう思う (5名) ③ どちらともいえない (1名)
- (7) この授業を全体的にみたときに、どの程度満足していますか
① 満足している (5名) ② どちらかといえば満足している (9名) ③ どちらともいえない (0名) ④ あまり満足していない (1名)
- (自由記述回答) ※主だったコメントのみ

【最も印象に残っている内容】

「恒重式番手と恒長式番手について、綿糸や毛糸、フィラメント糸等、適用範囲ごとに英式綿番手やメートル番手、テックスやデニールを用いて、糸の太さを表示しているという内容が最も印象に残っています。」「ペットボトルホルダーの製作が最も印象に残っている。表布と裏布でできていて、2種類のサイズに対応できる機能性もあり、ミシンを使う練習として、やりがいのある製作だったと思う。製作できて楽しかった。」「和服の内容が個人的に興味深く、面白かった。」「布の観察をしたこと。同じ布に見えてもよく見ると織り方が違って面白かった。織り方で布の強さが変わったり、触り心地が変化したりするところに興味を持って印象に残っている。」「生活に役立つ知識も多く、授業で制作したアクリルたわしは毎日使用している。」「ペットボトルホルダーの作成の中で、自分自身の裁縫技術を高めながら、新たな発見や、学校教材への活用等、たくさんのことを学び、考えることができ、とても充実した時間でした。」

【初めて知ったこと】

「糸の撚りについて、糸の撚りの方向には S 撚りと Z 撚りがあり、ミシン糸の場合は、ミシンの窯の回転方向に合わせて Z 撚りをかけているため、手縫いには適さないということを初めて知りました。」「繊維や布の種類については初めて知ることばかりだった。麻や絹など、聞いたことのある名称でも、その分類については初めて知った。また、その長所や短所なども初めて知ることが多かった。長繊維、短

繊維というのも初めて知った。」「糸の構造や洗濯剤の内容等、ほとんど知らないことだった。」「混紡によってそれぞれの繊維のいいところ取りをしていること。それによって現在売られている様々な素材の衣服が作れるのだなと思った。」「衣料取扱い絵表示が変更されたことや和服については知らなかったことが多く、とても興味深かった。」「繊維の特徴や短所を深く学ぶことは初めてだったので、この分野について学べてよかったと思うし、今後の生活に活かせることだと感じました。」「布について着目することはあっても糸について考えたことはなかったので、撚り方等とても興味深い内容でした。」

【もっと知りたかったこと】

「繊維や布の性質についてもっと詳しく学びたい。」「和服や織物の分野が特に興味深く、もっと調べてみようと思った。」

3. 【結果】授業アンケートより

授業アンケートの結果をみると、本授業の満足度が例年と比べてやや低い傾向となった。今年度もコロナ感染状況の増減により、昨年度以上に感染対策のための遠隔による授業回を増やさざるを得なかったことが影響を及ぼしていると推察している。

4. コロナ禍における遠隔授業の実施について

今年度も昨年度に引き続き苦慮を重ねたのは、「コロナ禍の状況に左右される、先の見えない授業運営」であった。新型コロナ感染対策を含め、今年度本授業で対応をはかったことならびに苦慮したところは以下の通りである。

- ・通常対面授業時には、糸の構造や織物の構造について、実感を伴った理解を目的に、授業内で実際の市販糸や織物を用い、拡大鏡を使用した構造観察を実施しているが、遠隔授業でも同様の活動を維持するため、事前に受講者全員に実物サンプル糸・布の配布と拡大鏡の貸出をするなどして遠隔授業に臨んだが、観察のポイントなどが伝わりづらく思いのほか困難を伴った。
- ・「和服の学習」については、遠隔授業となったこともあり、学習内容をシンプルにする必要に迫られ、結果的に和服に関する知識の詰め込み色の強いものとなってしまったが、受講生にとっては非常に興味を持てる内容であったという反応が得られた。遠隔においては個別の学びに適した教材を、対面授業では協働的な学びに適した教材を選択・設定することが重要であることを実感した。